

IWG

International Working Group on Women & Sport  
国際女性スポーツワーキンググループ

# 2022年 進捗レポート サマリー

International Working Group on Women & Sport  
Aotearoa New Zealand Secretariat 2018-2022  
Women in Sport Aotearoa,  
Ngā Wāhine Hākinakina o Aotearoa

2022年11月



# 目次

<b>1. 変革をリードする</b>	<b>2</b>
1.1 背景	2
1.2 振り返り	3
1.3 回答組織	3
1.4 2022年の優先課題	4
1.5 本レポートの概要	5
<b>2. アクションの概要</b>	<b>6</b>
2.1 進捗状況のモニタリング	6
2.2 戦略、投資、評価	7
2.3 意思決定者、コーチ、役員のリーダーシップ	8
2.4 参加	9
2.5 ハイパフォーマンス・スポーツ	10
2.6 健康とウェルビーイング	11
2.7 女性に配慮したスペース	12
2.8 メディア	13
<b>3. COVID-19の影響</b>	<b>14</b>
<b>4. 公平性への障壁</b>	<b>15</b>
<b>5. 進歩を重視</b>	<b>16</b>
<b>6. CHANGE INSPIRES CHANGE</b>	<b>17</b>
<b>7. 女性とスポーツに関する</b>	
<b>ブライトン・プラス・ヘルシンキ2014宣言</b>	<b>18</b>
7.1 基本方針	18

# 1

## 変革をリードする



スポーツやアクティブなレクリエーションへの少女や女性の参加は、「主流文化、宗教、そして男性優位な社会構造から発せられる交差的な影響」に左右されます。

WOMEN IN SPORT/INTERNATIONAL

### 1.1 背景

1994年5月、イギリスのブライトンにおいて「女性、スポーツ、変革への挑戦」会議が旧英国スポーツ評議会主催と国際オリンピック委員会の支援を受けて開催されました。この会議には様々な国や団体が集まり、世界の女性とスポーツの動きの中からアイデアや経験を共有することを目的としていました。

この会議がきっかけとなり、ブライトン宣言や「国際女性スポーツワーキンググループ (IWG)」の設立など、様々な変化が起きました。

IWGは1998年以来、4年ごとに2014年のブライトン・プラス・ヘルシンキ宣言の署名者らを対象に調査を依頼し、地域および世界レベルでの介入の影響を進捗レポートとして発表しています。

本レポートは、IWG2018年進捗レポート(2013-2018年)以降の、スポーツと身体活動における女性と少女に関する進捗をまとめたもので、以下の内容を含んでいます。

- 変化を証明する高いレベルの成果
- 主要な新興テーマ
- COVID-19(新型コロナウイルス感染症)のスポーツと身体活動の両方における少女と女性に対する影響
- アクションの優先順位

## 1.2 振り返り

2018年の進捗レポートから浮かび上がった主なテーマと提言は以下の通りです。

- 女性のリーダーシップ
- ジェンダーに基づく暴力
- 女性スポーツにおけるメディア露出と描写
- ジェンダー主流戦略
- ジェンダー平等のための政策と行動計画
- ジェンダーに基づく研究、モニタリング、評価

上記は、2018年の第7回IWG会議での議論と提言を踏まえ、IWGのボツワナビッグ5 提言としてまとめられました。

## 1.3 回答組織

2022年の調査では、次のような幅広い組織から回答がありました。

- 省庁/スポーツ・レクリエーション評議会 (9%)
- オリンピック・パラリンピック委員会 (19%)
- スポーツ連盟/団体 (57%)
- スポーツに携わる女性組織/団体 (10%)
- スポーツ・レクリエーションクラブと団体 (1%)
- 高等教育機関 (1%) など

また、その出典は世界各地に及んでいます。

- ヨーロッパ (32%)
- アジア (16%)
- アメリカ (12%)
- アフリカ (11%)
- オセアニア (6%)
- 国際的に活動する組織 (24%)

## ボツワナビッグ5 提言

### 1. メディア

ステレオタイプにとらわれず、女性のスポーツに関する報道を増やす

### 2. 説明責任

透明性のある資源配分の増加

### 3. 代表権

公平なリーダーシップの役割

### 4. 研究から実践へ

エビデンスに基づく政策と実践

### 5. コミュニケーション

IWGデジタル・プラットフォーム

## 1.4 2022年の優先課題

2022年の回答組織からのフィードバックによると、2018年の進捗レポートに記録された同様の課題がいくつか残っている一方で、新たな優先課題も表出しています。

課題	2022	2018
指導的立場にある女性の不足	✓	✓
スポーツにおけるジェンダーに基づく暴力	✓	✓
スポーツメディアにおける女性の報道・描写の欠如	✓	✓
女性コーチ・指導者の不足	✓	✗
エリート制度における差別・ジェンダーバイアス	✓	✗
ジェンダーを主流とする戦略の欠如	✗	✓
ジェンダー平等のための政策や行動計画の欠如	✗	✓
ジェンダーに基づく調査・評価の欠如	✗	✓

2018年進捗報告書で強調されたように、スポーツおよび／または身体活動における少女と女性の公平性を達成するための最大の障壁の1つは、スポーツと身体活動が、現代社会と社会の進歩や時事問題を反映していない時代遅れのモデルに基づいていることにあります。特にコロナ禍は、女性や少女に負の影響をもたらし、それはスポーツや身体活動分野にも及びました。

“ COVID-19は、女性の権利侵害にも関係する経済的な影響をもたらしました。パンデミックのために子どもや高齢の親が家にいる場合、女性が一番先に自分を犠牲にするという弱い立場に置かれるからです。

WOMEN IN SPORT ORGANISATION/INTERNATIONAL.

## 1.5 本レポートの概要

本レポートで扱うテーマは以下の通りです。

- 政策、戦略、行動計画および進捗状況を把握するための調査
- リーダーシップと意思決定(少女と女性への人的資源を含む)
- コーチングと指導、教育・コーチングプログラムと教材、審判員
- 学校およびより広い範囲での身体活動およびスポーツへの参加
- エリートレベルのシステムや引退後を視野に入れたハイパフォーマンス・スポーツ
- 健康とウェルビーイング(ジェンダーに起因する暴力や摂食障害を含む)
- 施設、環境、託児を含む女性に配慮したスペース
- メディア露出と描写
- COVID-19が進捗に与える影響

レポートの各セクションでは以下のテーマについて言及します。

- データおよび前回の報告期間との比較分析を含む現状の概要
- [IWGインサイトハブ](https://www.iwginsighthub.org/)へのリンクおよび実施されているアクション事例
- 行動と不行動の理由
- 入手可能なエビデンスに基づく洞察
- 将来のアクションのための推奨事項

IWG進捗レポート2022の全文は、[IWGインサイトハブ\(https://www.iwginsighthub.org/\)](https://www.iwginsighthub.org/)にてご覧いただけます。

※IWGインサイトハブでの「IWG進捗レポート2022」公開は2023年5月まで

# 2

## アクションの概要

### 2.1 進捗状況のモニタリング

進捗状況のモニタリングは、多くのレポートで重要な提言となっており、ボツワナ・ビッグ5にも盛り込まれています。

2022年進捗レポート調査では、記載されたトピックの研究、エビデンス、分析に関する情報が収集されました。少女と女性のための公平性に注力した行動計画を持つ回答組織の割合は増加していますが、スポーツと身体的活動における、女性に特に焦点を当てた研究を委託または実施している組織の数にはほとんど変化がありません。調査対象組織(29%)が、女性に焦点を当てた調査を実施できない主な理由として能力、資源、スタッフの不足が挙げられています。

しかし、アスリート、組織スタッフ、コーチ、リーダーをジェンダーのレンズを通して理解することに焦点を当てた研究、データ、評価は増えてきています。

多岐にわたる研究が実施されています。

アスリートを対象とした研究では、性別特有のニーズや懸念、健康問題(怪我や病気)、安全性(ヘッドギアなど)、身体的なコンディショニング、月経に特化したものなどがあります。

少女や女性の参加を増やすための戦略や戦術など、かなりのデータが収集されています。

多くの組織が、上級職や管理職、コーチングや役員などにおける男女比を追跡調査しており、これらの洞察に基づいて、女性の進路、自信、能力を向上させるための具体的な介入策を開発している組織もあります。

女性に焦点を当てた研究の価値と、具体的に特定された分野の研究が政策やプログラムを導くことができるという認識も広まっています。時間をかけてパフォーマンスを追跡することにより重点を置く必要があります。

調査を実施した回答組織の4分の3以上が情報共有する用意があるとしており、IWG進捗レポートの完成の一環として、インサイトハブに掲載される予定です。

ほぼすべての調査対象領域での組織・団体やその活動は、少女や女性が経験するスポーツや身体活動の不公平を軽減することにプラスの影響を与えてきました。

組織として行動を起こさない主な理由としては、以下の通りです。

- 資源の不足
- 優先課題とされていない
- 組織の範囲外

しかし、問題(例えば、託児所不足)があるとの認識や受容が低く、介入を要する分野もあります。これらについては、本レポートの本文でより詳しく説明しています。



IOCをはじめ、国際的なジェンダー政策や、セーフガード政策などジェンダーレンズを適用した政策となる助言を行っています。

WOMEN IN SPORT/INTERNATIONAL

## 2.2 戦略、投資、評価

大きく変化している分野;

- ジェンダーの視点を取り入れた戦略、政策、計画 ..... **76%**
- ジェンダーターゲット ..... **67%**
- モニタリングと評価 ..... **56%**
- 投資 ..... **54%**

これらの活動は、単独または組み合わせで、レクリエーションやスポーツに参加する女性や少女の数を効果的に増やし、変化を促すプロセスへの理解を反映しています。しかし、約半数の政策や計画には具体的な資源配分がなく、計画を評価している回答組織は半数以下(46%)です。

### 提言1

ジェンダーレンズの適用を継続し、プロジェクトやプログラムの評価を通じて影響を追跡する。



## 2.3 意思決定者、コーチ、役員のリーダーシップ

回答した組織のかなりの割合が、女性が影響力のある地位にいること、および/または、少女と女性がアクションの焦点となるよう心がけているとしています。さらに、ほぼ4分の3が規定改革を行いました。

注目すべき点は以下の通りです。

- 女性リーダーを増やすためのアクション ..... 85%
- ジェンダーを意識したスタッフまたはグループ、女性委員会 ..... 40%
- 少女と女性を中心にした役割 ..... 33%
- ジェンダー委員会 ..... 16%

女性によるリーダーシップと意思決定は、規定改革(74%)、メンタリング(60%)、トレーニング(60%)、ネットワーク(57%)、男女比率性(51%)を通じて達成されています。

コーチや指導者は、回答組織のほぼ4分の3が注目している反面、審判員、役員へのフォーカスは減少(58%→51%)しています。戦略としては、キャンペーン、女性専用コース、トレーニングや開発教材の変更などが含まれます。

### 提言2

変化を求める他の組織にとって有用なリソースとして、IWGインサイトハブで事例を収集し、参考組織規定、研修や指導プログラムのリソース、研究および評価へのリンクなどを共有する。

### 提言3

アスリート、コーチ、審判員としての少女や女性特有の要件を考慮したトレーニングや育成プログラム、リソースを設計し提供する。

### 提言4

女性が活躍できる環境を整えるため、役員会から競技場まで組織全体にわたってジェンダーバランスを実現するためのシステム改革を推進する。スポーツ界で女性がリーダーシップを発揮することのメリットを重視し、広く社会に認知させる。

## 2.4 参加

COVID-19が、少女と女性の参加を増やすことに重点を置いていると回答した組織割合の減少に影響している可能性はあるものの、より広範な介入策が用いられています。

**学校での身体活動** (66%から52%に減少)には、職員研修(80%)、コーチ/審判の訓練を受けた女子(78%)、指導者プログラム(71%)、女子だけの機会(71%)に焦点を当てた取り組みが含まれています。

参加促進のために活動した組織は減少(91%から85%)しましたが、人材育成(76%)、活動計画(69%)、専用リソース(56%)のような様々なアプローチが使われています。

また、スポーツへの交通手段を提供したり、女子専用施設を提供したりしている組織の割合も減少しています。しかし、特に一人での移動が危険な場所や、女性専用の施設が唯一の参加方法である若い女性にとって、これは依然として優先事項となっている組織もあります。

COVID-19後の世界において特に重要で価値のある戦略となる少女と女性の参加促進に、再び注目する必要があります。スタッフのトレーニング、ジェンダーに焦点を当てた行動計画、専用のリソース、安全な移動、女性を対象とした施設などは、これを実現するための多くの方法のほんの一部に過ぎません。

### 提言5

リーダーシップとコーチングスキルの開発を通じて、女子のエンパワメントを継続する。

### 提言6

COVID-19の社会的・経済的影響を最も強く受けた人々を対象としたプログラムの計画、資金調達、実施を優先させる。

### 提言7

スポーツやアクティブなレクリエーションに参加するための安全な交通手段に関する取り組みを継続する。

### 提言8

コロナ禍で試された新しい配信モードを活用し、より多くの人々に届くプログラムを提供する。

## 2.5 ハイパフォーマンス・スポーツ

エリートスポーツ(75%)でも、少女や女性の状況を改善するための活動が積極的に増加し、女性コーチ/リーダーを増やすキャンペーン(74%)、危害防止政策(63%)、資金配分(60%)、新興アスリートへの支援(48%)などがありました。アスリートの声が変革の重要な要素であることを示す例もあります。

エリート選手から引退する女性を支援している組織はわずかに減少(40%から36%)しており、これはオリンピックが延期されたためと思われます。介入の内容は、教育機会(61%)、キャリアコーチング(57%)、ワークショップ/セミナー(57%)が挙げられます。

エリートスポーツにおける女性の状況改善は「問題ではない」とした回答組織はごくわずかでした。これは、前回のレポートから大きく変わった点です。

エリートスポーツにおける女性の課題は、今やメディアの脚光を浴び、オーディエンスは女性アスリートからの声をより多く聞くようになってきました。問題があることを認め、被害防止、資金調達、サポート、引退の問題に取り組む姿勢から、状況は改善され始めています。

### 提言9

アスリート、コーチ、審判員として女性を重視し、偏見や障壁なしにキャリアを積めるよう、ハイパフォーマンス・スポーツのシステムを構築する。

### 提言10

あらゆるスポーツの場面、とりわけ少女と女性が活躍し、リードし、知識とスキルを共有できるハイパフォーマンスにおいて、少女と女性の安全を守るための政策と実践を構築し続ける。

### 提言11

アスリートの競技から引退への移行や引退準備を支援するシステムを開発・導入する。

## 2.6 健康とウェルビーイング

2022年のレポートでは、ジェンダーに基づく暴力への重点的な取り組みが増加(63%から67%)し、摂食障害への重点的な取り組み(22%)への変化はありませんでした。

**競技会**は、女性が集まり、情報やサポートを受けることができる**教育の場**であります。

多くの少女や女性にとって**安全**は喫緊の課題ですが、2018年以降ほとんど変化はありませんでした。

**ジェンダーに起因する暴力削減**のための介入(63%から67%に増加)には、政策やガイドライン、キャンペーン、教育プログラム、被害者支援の仕組みが含まれます。

**摂食障害**は引き続き注目されており、多くの組織にとって新たな優先事項となっています。限られた資源と他の優先事項の要求が、これをより複雑なものにしており、一部の組織では、介入をより広い組織的な福祉政策とプログラムの中に織り込んでいます。摂食障害と身体イメージに関する議論の促進、栄養教育教材の修正、アスリートの家族、医師、栄養士との面談などが実施されています。

### 提言12

少女や女性を支える情報や資源を提供する安全な場所としてスポーツを活用する。

### 提言13

スポーツに携わる少女や女性の課題として、健康と安全についてより深く認識させ、児童保護方針と安全策のトレーニング実施を含む、安全なスポーツ参加を支援する政策やプロセスを構築する方法を示す。

### 提言14

ジェンダーに起因する暴力を防止する政策と実践を開発し、それらを実施し、スポーツ・身体活動システムのあらゆる部分を通じてこれらを周知する。

### 提言15

女性アスリートにとって摂食障害が現在のパフォーマンスだけでなく長期的に影響することを認識させ、既存の研究や有効な介入策を活用して支援する。

## 2.7 女性に配慮したスペース

少女や女性のニーズを満たす施設に力を入れる組織は数が限られています。

施設提供への介入には、更衣室、適切な設備へのアクセス、施設を開発・改善するためのリソースが含まれます。回答した組織のうち、公平な会場スケジュール、女性専用時間帯、安全な交通手段に重点を置いている組織は、割合的に多くありません。

女性アスリート特有のニーズについては、まだまだ理解されていないのが現状です。

託児ニーズが満たされるように活動していると回答した組織はわずか20%で、託児所のアクセスと提供は引き続き問題となっています。主な内容は、安全な遊び場の提供(64%)、遊具の提供(57%)、施設での託児を可能にする資源の提供(57%)です。

女性のスポーツの多くの側面と同様に、女性は子供の世話を親戚に頼るなど、自己責任の範疇との考えがまだ残っています。子供の安全や女性が安心して参加できるように、託児スタッフの配置をより優先させる必要があります。

### 提言16

女性にとって安全で適切な空間のビジョンを確保するために、ジェンダーレンズの観点から施設の開発または改善に投資し、適切なプレー環境(更衣室やジェンダーに特化した資源、設備)と少女や女性特有のニーズをサポートする環境を提供する。

### 提言17

費用対効果の高い、女性または少女専用枠でのプログラム編成や時間帯を調整し、提供する。

### 提言18

女性や男性の参加を可能にするために、チャイルドケアの提供を優先する。

## 2.8 メディア

スポーツ界における女性の認知度や、女性の描かれ方を変えるために努力していると回答した組織の割合(61%)に変化はありませんでした。

メディアへの露出は、通常、以下の2つの方法で実現されています。

- 女性アスリートと女性スポーツに関する社会的認知の向上 …… **90%**
- 女性スポーツのメディア露出を改善するためのキャンペーン …… **67%**

メディア描写は、積極的に取り組まれている分野であり、多くの回答者が、肯定的なイメージやストーリーを提供することで、メディアの露出内容を管理しています。また、自分たちのメディア・コンテンツについてより積極的に取り組んでいる組織もあります。

メディアに女性アスリートやチームの画像、ストーリーを提供すること(91%)で、メディアにおける女性の描かれ方に影響を及ぼす介入策となっています。

### 提言19

ジェンダーに配慮した、魅力的なコンテンツを制作し、あらゆるレベルのスポーツに参加し、競争する女性や少女の強さやスキルをメディアと共有する。女性・少女と男性・少年のバランスが取れたコンテンツを提供する。

### 提言 20

スポーツをする女性や少女に対する認識を高めるために、固定化された女性像ではなく、スポーツをする女性や少女の強さとスキルを反映するようなメディアの意識、報道能力、可能性を向上させる。

### 提言21

メディア露出と表現について、監視と報告をする。

# 3

## COVID-19の影響

回答した組織の95%が、パンデミックの影響を受けたと回答しました。COVID-19の影響は多岐にわたっており、その多くは長期的なものになると考えられます。

本調査で得られた情報だけでなく、コロナ禍の影響に特化した調査プロジェクトでは、脆弱なグループは、他のグループよりも大きな影響を受けていることを指摘しています。

リソースの確保が問題となる場合、女性や少女のニーズがしばしば真っ先に脇に追いやられます。多くの国々で、あらゆる種類のスポーツが長期にわたって議題から外され、アスリートが技を磨き、競争し、最高のパフォーマンスを発揮することができなくなっています。コミュニティレベルでは、完全に閉鎖されたプログラムもあれば、生き残るために、中核的な活動に焦点を絞らざるを得なかったプログラムもあります。

一部の組織は、オンライン・サービスへ移行し、コミュニケーションを改善し、より技術的に熟達することができました。しかし、それらは少数派です。

どの組織も最も脆弱なグループに焦点を当てる必要があります。つまり、コロナ禍で経済や健康への影響を最も受けている人々、特に暴力や侵略の犠牲になっている人たちです。一部の組織は、その優先順位に再び注力する必要があり、現在の意思決定者、促進者、実現者、支援者を維持した上で、組織の再構築に推進する必要があります。

### ■浮き彫りにされた3つの重要なテーマ

#### 【参加への障壁】

暴力、差別、スポーツにおいて女性が公平に扱われるための措置の欠如といった、既存の参加への障壁の増加

#### 【トレーニングと競技】

アスリートにおけるトレーニングと競技への復帰、組織におけるコロナ禍の規制緩和後の復活

#### 【経済的な不安】

すべての分野に影響

### 提言22

コロナ禍で社会的、健康的、経済的に最も影響を受けたグループ（脆弱なグループ、孤立したグループなど）を特定し、スポーツへの参加が損なわれていないか、その影響を是正するための投資やプログラムを優先する。

# 4

## 公平性への障壁

女性のスポーツと「ウーマン・イン・スポーツ」運動は、世界的に様々な形で発展してきました。スポーツの分野でも、他の生活分野と同様に、エビデンスに基づく知識が重要視され、政治的行動に反映されることが重要となっています。

この2022年進捗レポートでは、公平性の達成に向けた最も大きな障壁を明らかにしています。

### 不足する女性リーダー

多くの社会では、リーダーシップというと男性的なイメージがあります。女性的な特徴から弱さを連想させるため、女性リーダーは尊敬と評価を得るために、必要以上に努力をしなければなりません。父権主義の社会では、男性はより優れた意思決定者であると考えられており、世界のいくつかの地域では、スポーツの世界で意思決定をするポジションに女性がいることに違和感を持つ男性もいます。



文化や男性中心の集まりでは特に男女平等、同一賃金、リーダーとしての機会、研修や能力開発の機会をめぐってまだ大きな、そして根本的な変化が必要です。

WOMEN IN SPORT ORGANISATION/INTERNATIONAL



(アフリカでは)女性が役員クラスに昇進しても、意思決定は下位の男性によってなされることがあります。

OLYMPIC/PARALYMPIC/AFRICA

### ジェンダー化された社会規範と期待

ジェンダー化された社会的役割と地位(時には文化的、宗教的信念に基づく)は、女性に対しての先入観、ステレオタイプな女性観、父権主義的な態度をもたらしています。



特にスポーツにおいては、女性のスポーツ参加の機会を制限するような多くの法的障壁に直面している国が多くあります。

SPORT FEDERATION/EUROPE



## スポーツや身体活動は、男女が平等に与えられた人権とはみなされていない

少女や女性は、彼女らに課せられる様々な役割や責任によって、スポーツに参加するための「自由な時間」が減らされている現状があります。

“ スポーツは依然として女性にとって主に娯楽と見なされています。そのため、いまだに女性はより「重要な仕事」を優先し、その上で空き時間にスポーツに参加することが期待されています。

SPORTS FEDERATION/AMERICAS

## 社会経済的・財政的要因

施設利用料、託児、衣服、安全な移動などの要因は、女性や少女のスポーツや身体活動への参加に影響を与えています。

“ スポーツは依然として女性にとって主に娯楽と見なされています。そのため、いまだに女性はより「重要な仕事」を優先し、その上で空き時間にスポーツに参加することが期待されています。

SPORTS FEDERATION/AMERICAS

## 少女と女性が可視化されていない状況

スポーツの世界では、存在感の少なさが何重にも影響を与えます。ロールモデル(目に見える対象)がいなければ、その存在になろうと思うことすらできないのです。また、メディアで報道されないことで、収益を生む機会も減少します。

“ 女性スポーツの報道を増やすことで、露出の機会が高まり女性スポーツの知名度と収益の向上に繋がります。

SPORT FEDERATION/EUROPE

## 時代遅れなスポーツのモデル

男性中心の企画と実践のモデルは、少女や女性にとって障害となります。

“ 少女と女性のスポーツや身体活動の公平性を実現するための最大の障壁は、スポーツや身体活動が時代遅れのモデルに基づいていることにあります。その構造、価値観、野心は、現代社会や他の分野での進歩を反映していないためです。

OLYMPIC/PARALYMPIC ORGANISATION/EUROPE

# 5

## 進歩を重視

COVID-19の世界的な大流行という状況の中、多くの分野で前向きな進展がありました。これは、スポーツと身体活動において、少女と女性のための公平性を実現するために尽力しているリーダーたちの努力の証です。

調査結果から明らかなのは、スポーツと身体活動において、少女と女性のための公平性を**確保するために努力している**ことです。

多くの組織が、ジェンダーに基づいた社会規範や、性別で異なる役割や期待が根強く支配する国やコミュニティで活動を続けており、大きな課題となっています。しかし、少女と女性の未来に対する**ビジョン、粘り強さ、これまでの成果に対する誇り**が見受けられました。

今後の課題を明確に認識し、政策やプログラム、ツールやトレーニングを通じて、**優れた実践を共有しようとする意欲**があるのです。

また、変化を提唱し、スポーツにおける公平性の問題の避雷針となり、洞察と行動の拠点として機能する**IWGの活動は、力を結集する強みとして認められ、評価されています。**

**進捗の追跡と報告の価値**は、変化の明確な証拠となり、グローバルな影響を反映することにあります。

また、進捗状況を継続的に確認することは、**ブライトン・プラス・ヘルシンキ宣言の署名者がその原則にコミットすることを強化する機会**でもあります。

# 6

## CHANGE INSPIRES CHANGE

グローバルな変化と社会的改革は、スポーツや身体活動をする少女や女性のためのダイナミックな環境作りを継続させるための原動力です。

2022年のレポートにおいて、女性と少女にとって「喫緊な課題」と特定された公平性に欠ける分野は以下の通りです。

- 意思決定のポジションにおける就任率の低さ
- コーチや指導者の割合の低さ
- エリート・パフォーマンス分野における差別やジェンダー・バイアス

過去4年間で、行動の優先順位は変化しました。

—— より重要と思われるようになったものもあれば、あまり重要ではなくなった課題もあります。

### 新たな課題

これらの新たな課題は、今後の進捗レポートの研究テーマとして検討される可能性があります。

- トランスジェンダーを含む**ジェンダー・アイデンティティ**と交差する性認識の影響
- 特に植民地化されたコミュニティにおける**先住民問題**のさらなる調査の必要性
- **母親である女性**がスポーツや身体活動に参加することや、子供を持つ女性が身体活動やハイパフォーマンス・スポーツへの参加に与える影響についての言及の欠如
- **障がい者スポーツ**に対する認知度や価値の低さ
- **COVID-19**が女性スポーツに及ぼす経済的および社会的影響

# 7

## 女性とスポーツに関する ブライトン・プラス・ヘルシンキ 2014宣言

### 7.1 基本方針

#### 1. 社会とスポーツにおける公平と平等

- a. 国連憲章、世界人権宣言、障害者権利条約、ベルリン宣言 (ユネスコ MINEPS V)、そして女性に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する国連条約にしたがって、スポーツと身体活動に責任のある組織・機関を保障するために、国や政府はあらゆる努力をすべきである。
- b. レジャーやレクリエーション、健康増進、高い競技力など目的は違っても、あるいはいかなる人種、肌の色、言語、宗教、信条、性的指向や性的アイデンティティ、年齢、結婚歴、障害の有無、政治的信念や党派、出身国であっても、スポーツ・身体活動に参加し、関わるための平等な機会は、全ての女性の権利である。
- c. 資源、力、責任は、公正かつ性・ジェンダーによって差別されることなく配分されるべきである。しかし、そのような配分は女性と男性ともに有益になるよう、いかなる不均衡な状況も是正されるべきである。

#### 2. 施設

スポーツ・身体活動への女性と少女の参加は、施設の多様性とアクセスのしやすさ、特に安全で安心できる空間かによって影響される。このような施設のプランニング、デザイン、マネジメントは、その地域にいる女性と少女特有のニーズに対し、適切かつ公平になされるべきである。特に、チャイルドケアの提供、安全な交通手段、スポーツをしている際の安全面へのニーズに配慮すべきである。

#### 3. 学校とユーススポーツ

- a. 少女と少年とでは、スポーツへのアプローチが顕著に異なることが研究で示されている。また、質の高い体育(QPE)は、特に少女たちが生涯を通じてスポーツに参加する上で必要な技能や知識、理解を高めるために重要である、とも指摘されている。若者のスポーツ、教育、レクリエーション、体育に関して責任のある者は、身体的リテラシーや若者の基礎的な運動技能を高めるプログラムに、少女の価値、態度、向上心を考慮した平等な機会や学習経験が組み込まれていることを保障すべきである。
- b. 特に、QPEに関するユネスコのガイドラインや国際スポーツ科学・体育協議会の体育に関する国際的な意見表明書に基づいて質の高い体育を提供するべきである。

#### 4. 参加を高めること

- a. スポーツ・身体活動への積極的な参加が健康につながると多く証明されてきている。成人と青年の活動レベルに対して世界保健機関(WHO)の勧告を戦略的に取り入れるべきである。
- b. スポーツ・身体活動への女性の参加は、活動のしやすさに左右される。スポーツをする機会やプログラムを伝える責任のある人たちは、女性たちが、幼年期から高齢者になる一生を通じ、女性のニーズや向上心にあった活動を提供し、促進すべきである。

## 5. 競技スポーツ

- a. 政府やスポーツ団体は、女性アスリートの具体的なニーズを考慮した競技力向上に関連する全ての活動およびプログラムを保障することによって、女性たちが潜在的に持つ競技力に到達するよう、平等な機会を提供すべきである。またこれらは、競技力向上のために持続可能な基盤の中に組み込まれるべきである。
- b. エリートもしくはプロアスリートを支援する人々は、競技の機会、報酬、インセンティブ、承認、スポンサーシップ、プロモーション、その他のサポートが、女性と男性両者に公正かつ公平に提供されることを保障しなければならない。

## 6. スポーツにおけるリーダーシップ

女性はいまだ、あらゆるスポーツおよびスポーツに関連した組織のリーダーシップや意思決定の立場において少数派である。これらの領域に責任のある人たちは、女性リーダーの採用、メンタリング、エンパワメント、報酬、そして彼女たちが働き続けられることを特に考慮しながら、あらゆるレベルのコーチ、アドバイザー、意思決定者、審判、管理者、スポーツをする女性の数を増やすための政策、プログラム、設計構造を作らなければならない。

## 7. 教育、研修、発展

女性および男性コーチや、その他スタッフ、またスポーツ・身体活動に携わるマネジャーやリーダーへの教育・研修、能力の向上に責任のある者は、その教育過程や経験が、ジェンダー平等および女性アスリートのニーズに関する課題に対処し、安全で安心できる環境であること、またスポーツ・身体活動における女性の役割を公平に反映し、かつ女性のリーダーシップの経験、価値、態度についても考慮することを保障すべきである。

## 8. スポーツに関する情報および研究

スポーツに関する研究とその情報提供に責任を持つ者は、女性スポーツについての知識や理解を高めるための政策とプログラムを開発すべきである。また、その研究の規範や基準は、女性と男性に関する研究に基づいていることを保障すべきである。政府およびスポーツ団体によって、女性スポーツに関する研究を行い、性別による統計データが体系的に収集・分析され、国際的、地域レベルで社会的発展に関する統計を集める機関の任務として、スポーツ・身体活動のデータを男女均等に集める努力をする。

## 9. 資源

資源の割当に責任のある人は、その支援が、スポーツをする女性や女性プログラム、そして本宣言の基本方針を推し進めていくための特別な措置に対して有効であることを保障すべきである。

## 10. 国内外の協力

政府/非政府組織は、女性とスポーツ・身体活動における、自らの組織の成功事例となる政策およびプログラムを国内外の組織と共有し、ジェンダー・エクィティを促進するとともに具現化すべきである。

IWG は、関係者とともに、採用された政策と達成した内容、および IWG 世界女性スポーツ会議における成果報告(女性スポーツに関するブライトン・プラス・ヘルシンキ 2014 宣言に基づく成果)に関して、定期的に情報を収集し共有する。